

## 富良野市新庁舎建設検討委員会 会議録（第2回）

1. 日 時 平成30年10月23日（火） 午後1時30分 ～ 午後5時30分
  
2. 場 所 富良野市役所 大会議室
  
3. 出席者 委員：小川委員長、小玉副委員長、萩原委員、佐藤委員、岡本委員、後藤(英)委員、  
原田委員、大玉委員、中村委員、坂本委員、相蘇委員、太田委員、木原委員、  
稲葉委員、山下委員、若杉委員、後藤(正)委員、吉田委員 (計18人)  
  
事務局：藤野財政課長 高田財政課主幹 委託業者（北海道日建設計）2名
  
4. 欠席者 菊地委員、青木委員、亀渕委員
  
5. 傍聴者 5人（うち報道機関2人）
  
6. 会議資料 会議次第  
富良野市財政概要（資料1-1、資料1-2）  
先進地視察報告（資料2）  
市民ワークショップ報告書（資料3）  
現状と課題の整理について（資料4）
  
7. 会議内容（要旨）  
別紙のとおり

## 会議内容（要旨）

### 1. 開会

### 2. 委員長あいさつ

【委員長】 本日は2回目の会議。各委員からの貴重な意見をいただきたい。

### 3. 経過報告

#### (1) 経過報告

【委員長】 事務局から報告願う。

【事務局】 第1回検討委員会開催後の経過を報告。基本計画策定及び基本設計の業務委託業者を企画提案プロポーザル方式により「株式会社北海道日建設計」に決定。今後事務局として、この検討委員会に参加することを報告。業者紹介。

#### (2) 前回の会議内容確認及び報告事項

【委員長】 事務局から報告願う。

【事務局】 前回の会議内容は、検討一体型の検討体制、検討の進め方及びスケジュール、会議の公開等を確認。先進地視察の説明、庁舎と文化会館の施設見学を実施。

委員意見として、基本構想をたたき台として白紙から議論すること、採決は全員出席で行うことが出された。

その他、事務局体制（総務部長を委員ではなく事務局とすること）と今後の財政概要の資料の要望があり。以下のとおり報告。

#### ・事務局体制について

現体制のままとする。この検討委員会は議会、市民、市の検討一体型。市の考えは市職員委員から説明し、この検討委員会で協議することが検討一体型の趣旨のため。

#### 【事務局】 ・今後の財政概要について

資料1-1は、平成19年度から平成29年度の決算統計をもとにした実績。この実績を踏まえ、資料1-2は平成30年度から平成40年度までを推計。千円単位で表示。

現時点での財政課の参考資料。庁舎建設事業費は、基本構想の58億円。財源は地方債51億円と自主財源7億円。公債費（借金返済費）は平成38年度から約2.3億円で、このうち歳入で交付税約0.7億円を計上、差し引き約1.7億円が毎年の負担と試算。

【委員長】 各委員から意見等はないか。

【委員】 経過報告のプロポーザル審査委員会で株式会社北海道日建設計が選定されたことについて、何がよかったのかは市ホームページにもない。提案に対する点数の中身というのは公表しないのか。

【事務局】 審査委員会は点数で審査。点数の結果は参加業者に報告しているが、その内訳まで公表していない。審査は、事業の進め方や企画提案の内容などの評価項目に対し、各委員の点数を集計した結果であり、選定された業者は全体的によかったという評価になる。

点数の内訳は公表していないが、本日の報告事項「業務委託プロポーザル企画提案の内容説明」で、選定した内容について説明する場を設けているので、ご理解をいただきたい。

**【委員】** 財政概要の資料について、後で論議する時間をとってもらえるのか。庁舎の建てかえを前向きに進めるとしても、庁舎を建てるのに幾らのお金を使えるのかということ。これからの高齢化で扶助費は増加、人口も減少で市税も減収し、地方交付税も減少が推測される。

この検討委員会では、後になって、ほかには予算を使えないような形にならないよう、使えるお金の中でどんな庁舎をつくったらいいのかという検討をしてほしい。

事務局側の進め方は、基本構想ありきだと思う。他市の事例を見てどうしたらいいかでは、基本構想を持った上で意見を求めるだけの会議にしかならないような気がする。

庁舎は、集約しなくても、市民の利便性さえ確保すれば別に分散型で構わないと思う。文化会館も併設し、分散している機能も全部集約するのがベースになっているが、今も分散化している中で、市民は別に困っていないと思う。

庁舎を建てかえるには、将来のことを考えて、これだけのお金だったら毎年返済していけるという数字を明らかに出してほしい。その上で、どういう庁舎をつくったらいいかを検討する委員会にしてほしい。回答できなかつたら回答しなくていい。

**【事務局】** 全体的な財政の仕組みとして、扶助費などがふえることで全体が膨むのではなく、全体的なものを見ながら予算をつけていく。また、市税が減れば地方交付税がふえる。地方交付税で補填する仕組み。肝心なのは財政需要額で、それを見きわめなければならないが、今回の資料の地方交付税の10年間の推計額は、公債費で措置される部分を除くと大体横並びの数字で推計している。

**【委員】** 税収が減っても、国がその分を全部補填してくれるから大丈夫と言うのでは、国の金を当てにして建設投資をしていくのかということ。そうではなくて、国に振り回されないように、扶助費などで歳出がふえていっても大丈夫だということを明らかにしながら投資をしていくやり方をしていかなければと思う。

経済界では、生産年齢人口をふやすために、行政にはもっと頑張っているいろいろな政策を打ってほしいと要望している。人口推計では、20年後か30年後かに、市の人口は1万4千人になると出ている。そういうことを踏まえて、本当にこのお金だったらいいよねという中で、どういう庁舎にしようかという議論ができる場にしてほしい。

事務局は、基本構想ありきで説明するような形にしかなっていない。この検討委員会は、市でつくった基本構想がいいか悪いかを論議するだけなのかという話になると思う。

**【委員長】** 今の意見に対して、ほかの委員から何か意見等はないか。

**【委員】** 財政的な見通しについて、この資料だけでは捉え切れないところが非常に多い。一般市民が理解できるかが一つのポイント。専門的に言うより、もっとわかりやすく、細かく、丁寧に説明していかなければと思う。

例えば、扶助費も増え、物件費も当然ふえるだろう。公共施設の改修費や修繕費も見なければいけない。これから年々幾らかかかっていくのか、具体的数値が示されていない中でこれを考えるのはちょっと危険かなと思う。

もっと言えば、国民健康保険、介護保険等の特別会計へ一般会計からの繰出金もかさんでくるのは目に見えているが、この資料では平成36年度以降はそれが明示されていない。もっと丁寧に説明するべきではないかと思う。

【委員長】 ほかに意見等はないか。

【各委員】 (意見等「なし」と発言する者あり)

【委員長】 この場合は市庁舎と文化会館の検討委員会で、財政の問題、あるいはほかの事業との対比の問題も大きな問題ではあるが、それについては市長から諮問されていない。私の理解としては、そこも重要だが、基本的には、ここに出されている基本構想に沿って最善にするためにはどうしたらいいかということ。ただし、今、委員からあったように、それを実行するために、こういう問題をきちんと整理しなければいけない、あるいは、検討しなければいけないというのは附帯すべきこと。

委員長としては、この委員会はそういう観点で進められるように願っている。もし、私の今の考えがそうではないというのであれば、ここで各委員から意見を出してもらい、方向性を見直してやっていくべきだろうと思うが、この件について意見等はないか。

何度も言うが、この事業を進めるに当たっていろいろな問題があれば、それは附帯事項として検討すべきとか、討議すべきとか、市民の理解を得るべきとか、そういう文章はきちんと入れるべきだと思っている。これでよいか。

【各委員】 (「異議なし」と発言する者あり)

### (3) 先進地視察報告

【委員長】 事務局から報告願う。

【事務局】 資料2により第1班と第2班の先進地視察を報告。

なお、報告資料は視察先の了解を得ていないため、委員内部資料としての取り扱いとする(資料公表なし)。

【事務局】 ・第1班 10月1日 札幌市民ホール、北広島市庁舎

・第2班 10月5日 当麻町庁舎、名寄市民文化センター

【委員長】 各委員から意見等はないか。

【各委員】 (意見等「なし」と発言する者あり)

【委員長】 参加された委員から、一言ずつ感想等願う。

【委員】 私は、当麻町と名寄市を視察。

当麻町は、特に議会に注目した。非常にコンパクトにでき上がっていることと、可動式が大きな特徴。可動式ゆえに格納庫があるが、それが格納庫場所だけになってしまっているのが残念だったが、場所は1階にあるので、議会と市民との関わりがより密接になるところは非常に感銘を受けた。

名寄市は、人口規模等を含めて富良野市とさほど変わらないロケーションであると思うが、それであれだけの施設を有していることへの驚きと、このまちでこの施設を支えていくのは大変かなと思った。

【委員】 私も、当麻町と名寄市を視察。

基本的に施設の内容より、施設のつくり方や維持管理などに注目した。

当麻町は建設買取方式。前例として、町営住宅を民間で建てて、それを町が買い取る形で進めていた。リース方式は考えなかったのかと聞くと、うちは実績があるので建物買取方式にした、メリットは、工期が短く安く済むので大満足という話だった。いろいろな

方法があるので、そういう部分は参考にすべきかと思った。

名寄市は、大きな建物で、維持経費が年間1億円。そこまではどうなのかなという気はした。

【委員】 私は、札幌市と北広島市を視察。

札幌市の大ホールは規模が大きく、富良野の倍はあるが、客席がなだらかで、奥行きもあり、富良野の文化会館のように急ではない。これからは、なだらかで車椅子を押しても苦にならないのがお年寄りにも子どもたちにも優しい文化会館のあり方と感じた。

北広島市は、吹き抜けが真ん中にあり、庁舎全体が何をしているのか、来庁者にわかるような雰囲気活気があったという印象。また、1階に子育て支援センターがあり、子どもときから庁舎に出入りすることで、将来、庁舎に気軽に立ち寄れるような雰囲気を建物以外でもつくり出しているのではないかと感じた。

【委員】 私も、札幌市と北広島市を視察。

札幌市民ホールは、最初は、次の施設までのつなぎ施設として、6年間のリースで最終的には取り壊す予定で建てられた。リース会社の説明では、一般的な返済年数は10年から15年、長くても20年という話。リースで建てた場合、幾分か安くなることが想定されるということだが、期間が短くなると年間のリース料が逆に高くなって、財政的にどうなのかなとひっかかった。

北広島市庁舎は、1階に子育て支援のスペースを大きく設けてあり、これからの庁舎は、ただ手続に来るだけではなく、いろいろな方に市庁舎に足を運んでいただけることを考えると、こういうスペースも十分に考えていくべきだと思った。

【委員】 私は、当麻町と名寄市を視察。

当麻町は、従来とは違った発想の中で、担当者は大変苦勞されたのだなと思った。建物自体はそれぞれの考え方や条件なりで変わってくるので、ある程度限られた財政の中で、本当に経済性を考えてよく努力されたなという感想を持った。

名寄市は、物をつくったけれども、利用率を上げていくためにソフトをどうするかという部分を考えないと、財政的になかなか厳しいのかなと、ただ維持管理費だけがかかっているような状況になってしまうと感じた。

【委員】 私は、札幌市と北広島市を視察。

札幌市のホールは、建物の中身は、コストを大分下げているのだなと思った。コストを下げる意味では勉強になるが、これは50年も使えないのではと思うものあり、その線引きはあると思う。また、コンビニや旅行代理店が入っていて、富良野の庁舎の場所だと目の前にコンビニが二つあるので、収益面ではそれにかわるようなものも考えていかなければいけないのではないかと感じた。

北広島市は、会議室がガラス張りで見える形。全部ではなくてもああいう会議室があってもいい。また、担当者の話では、基本計画よりも基本設計のほうが非常に大切で、基本設計のときに、何が欲しい、何が要らないときちんと検討しないと、その後に変えようと思っても変えられないとのこと。庁舎は、市民が中側を歩いて、外側に部署がある。当初は、逆に中に部署があって外を市民が回るようにしていたが、職員から大反対を受けて、急遽、変えた。庁舎は、もちろん市民のための市民の場所ではあるが、働く職員がどう使いやすいかということも考慮して設計していかなければと思った。

北広島市は、防衛省の補助などのお金があるからか、市民からは反対も全くなく、今も何もないということ。関心がないのだと思う。富良野の場合は関心があるので、同じようなにはいかないと思った。

【委員】 私は、当麻町と名寄市を視察。

当麻町は、町産木材をふんだんに使った建物で、2階建てのため木造でも十分に維持できると思う。また、ワンストップサービスで、1階フロアに教育委員会を除いた全職員が配置。職員数が80名ぐらいなので対応できるのだろうが、富良野の場合はちょっと無理かなと思った。町長室も和室風で、職員のテーブルも全て町産木材を使っていた。議場は、会議室などで多様な使い方ができ、これはいいことだと思った。

名寄市のホールは立派だったが、維持費がすごくかかっているとのこと。また、広い駐車場の除雪、排雪の経費も相当かかっているとのこと。富良野の場合は、利用頻度も十分考えながら身の丈に合ったホールがいいと感じた。

【委員】 私は、当麻町と名寄市を視察。

当麻町は、全部が木づくりで、職員の皆さんも見通しがよくて親しさが湧くように感じた。まだ新しく、木のおいがし、温かさと優しさを感じる建物だと思った。

ホールは、人口を考えると、今、富良野の文化会館のホールは700席で、これから建てる場所はそれほどの人数は入らなくていい、600席もあればいいかなと考えている。当麻町のホールは、小ぢんまりとして、すごく参考になった。予算内で皆さんが納得するものができればいいなというのが今の感想。

【委員】 私は、札幌市と北広島市を視察。

札幌市のホールのリース方式は、国からのお金を当てにしないで安く建てる方法があるのだなと思った。国の支援の期日が決まっているからと慌てて建てないで、また、富良野では難しいのかもしれないが、収益施設について考えることも必要だなと思った。また、鉄骨造だと、手入りをすれば100年はもつという話もすごく興味深かった。

北広島市は、立派過ぎて富良野にはどうかなというのが正直な感想。

【委員】 私は、北広島市を視察。

北広島市は、基本設計を決めてしまうと、実施設計では規模や構造の変更がきかなくなってしまうので、どういう機能にしたらいいのか、この委員会できちっとした論議ができればと思う。費用対効果もしっかり見きわめた上でやらなければならない。ただ立派なものを見てればいいというものではないなと感じた。

【委員】 私は、札幌市と北広島市を視察。

札幌市は、代替施設ですが、まちの真ん中にあるため、防音に多くのお金をかけたというところが印象に残った。

北広島市は、障がい者対応で、点字ブロックを正面玄関から最短距離で敷設して、あとはブザーで職員を呼び出して対応するという。点字ブロックを全庁的に敷設するとそれが逆に障がいになってくるためだという話が参考になった。

また、防災の部分では、災害本部を立ち上げる時の専用の会議室があり、日常は通常の会議室として使うが、電話線やパソコンの電源関係等も含めて、すぐに災害本部会議を開けるように装備がされているのが大変参考になった。

【委員】 私は、当麻町と名寄市を視察。

職員ワーキンググループの窓口・行政事務部会の担当委員なので、窓口・行政事務部分を注目した。

当麻町は、事業費を下げるのに参考になったのが、将来の人数が減ることを見越して現状では職員が働く執務室がかなり狭いつくりになっていること。さらに、会議室や相談室などのカウンターも、思い切って無駄を省き、かなり狭く、少なくなっていること。事業費を思い切って削減していくときに、将来的なことを見越している部分は職員ワーキンググループでの検討で、参考にしていけると感じた。

名寄市のホールは、ちょっと立派すぎるなというのが正直なところ。ただ、つくるのであれば、利用する人が使えない、見る人が見られないということがないように、これぐらいは必要なのかなとか、どこまでお金をかけるのだろうかという悩みながら、また皆さんの意見を聞いて考え、意見を反映させていきたいと感じた。

【委員】 私は、両方を視察。

役所の機能を考えると、バックヤードという考え方があり、セキュリティ機能を重視することから、文書発送室やコピー室、職員の作業室、更衣室など、市民が入れないところがある。今の富良野市役所はどこでも自由に立ち入りできるが、当麻町役場も北広島市庁舎もバックヤードという考え方があり、セキュリティを重視しているところだと思う。

名寄文化ホールは、他の委員からも意見があったが、ホールに対する考えがそれぞれあると思うので、納得のいくような形で議論したいと思う。

【委員長】 参加された委員からの感想等は、これから話を進めていく段階のベースとして考えていきたいと思う。

それでは、ここで休憩をとり、午後3時10分から再開。

[ 休 憩 ]

#### (4) 職員ワーキンググループ検討状況報告

【委員長】 会議を再開する。予定よりも約1時間遅れて進行しているが、大事な議案等があるので最後まで協力願いたい。

検討委員会の部会として設置した職員ワーキンググループ検討状況報告を、職員ワーキンググループ担当の市職員委員から報告願う。順番は、防災・セキュリティ部会、窓口・行政事務部会、建物構造部会、市民活動支援部会の順とする。

【委員】 防災・セキュリティ部会では、防災拠点機能、セキュリティ機能はどうあるべきかの2点について議論。まず、現状と課題として、耐震性能不足、浸水被害に遭う可能性が高いこと、防災用の備蓄資材の保管場所がないことが挙げられている。また、先日の地震のときにも、本庁舎の外部電力はこの大会議室と総務課の執務室しか対応していなかったため、全庁舎的にほぼ停電の状況が続いた。電気供給エリアを広げる必要があるとの課題が挙げられた。

セキュリティ機能では、1階サーバー室は、浸水被害を想定し上層階への設置が必要。入退庁の管理では、夜の会議では職員のない執務室にも自由に入れる状況があり、執務室のセキュリティ確保も必要。基本構想にある市民が集う場所を設置する場合は、セキュリティ確保は非常に大事。北広島市庁舎の会議室のオープン化、見える化も必要。書類管理でも、マイナンバー制度で書類の取り扱いが非常に厳しくなっているため、書庫のあり

方も課題。今後は、課題への具体的な対応策を議論する予定。

【委員】 窓口・行政事務部会では、3回部会を開催。市民課や税務課、福祉課、こども未来課など、窓口で日常的に市民の方の対応をしている職員で検討。

第1回目の部会は、現庁舎の窓口の課題を議論。例えば、水道料金の窓口が2階で、支払い窓口が1階であることや、窓口カウンター、相談室のあり方では、個人プライバシー保護の観点やバリアフリーなどが課題として挙がっている。

第2回目では、各部署の配置の具体的な検討を議論。部会では、庁舎の建物の大きさや形などが全く見えない中で悩ましい部分もあるが、現在、基本構想に基づき、窓口の集約化を大前提に、利用者にとって何が利便性が高いのか、使いやすいのかを基本に各部署の配置を具体的に検討。多くの市民が来庁する部門は低層階に配置するのが望ましいのではないかと。しかし、エレベーターが設置されれば、プライバシー保護を考え福祉や生活保護は、必ずしも1階でなくてもいいのではないかなどを検討。

第3回目では、市民ワークショップの意見を議論。プライバシーの関係や、手続のワンストップは、職員が持つ課題と大体一致していたが、福祉課、こども未来課は人目につかないほうがいいと言う方も多く、配慮すべきではないか。ワンストップサービスの窓口は、利便性は高いかもしれないが、ほかの自治体では待ち時間が長くなるという課題もあり、ワンストップよりワンフロアサービスがいいのではないかと。また、個人プライバシー保護のための、パーティションやつい立て、車椅子に配慮したカウンターなども必要。確定申告の時期など、書類の受け付けが集中する時期は可動式でフレキシブルに対応できる窓口がいいのではないかとという意見が出ている。

今後は、検討委員会での議論や地域懇談会、窓口に来られる市民の方の意見を聞きながら議論を詰めていきたい。また、部会でも先進地視察を検討している。

【委員】 建物構造部会では、まず何を論議すべきかを確認した。

1点目は、構造に関する防災機能。耐震性で耐震か、免震か、制震がいいのか。現庁舎は洪水ハザードマップでは50cmだが、庁舎をかさ上げするだけでいいのか、防水シャッターなども必要か。非構造物の天井材や照明の検討も必要ではないか。

2点目は、バリアフリー、ユニバーサルデザイン機能。官庁施設のユニバーサルデザインに関する基準及び公共建築整備のガイドライン及びバリアフリー法に準じ、入り口から通路の動線や執務室のあり方、視覚、音声、言語等の表記の仕方、環境的には光、音、熱、空気について、安全面の対応が必要ではないか。

3点目の省エネ・省資源機能。断熱性能、自然エネルギーの活用をどうしていくべきか、この辺がおろそかになるとメンテナンスで今よりもコスト高になるため検討が必要ではないか。また、維持管理機能では、100年建築と言われている長寿命化社会構造、組織構造の変化に対応できる構造で、オープンフロアにし、間仕切りの移動等の検討や、メンテナンスにすぐれている内外装の材質や構造、デザイン等も必要ではないか。

4点目は、PPPの活用の可能性について、建築構造というより建て方のほうで、PFIや建物買取方式、リース方式の研究もやっていかなければならないと考えている。

次回は、各ワーキンググループのメンバーともう少し掘り下げた意見交換をして、庁舎のあるべき姿を掘り下げたいと考えている。

【事務局】 市民活動支援部会は、担当委員が本日欠席のため、事務局から報告。



文化会館機能を含む市民活動支援部会では、8月から計3回開催。まず課題の整理として、文化会館の類似施設の演劇工場、ふれあいセンター、女性センターを見学し現状把握を行った。その中から出た意見では、演劇工場のホールは演劇に特化して建設。音が響かないつくりのため、現在、文化会館で利用されている吹奏楽などには向かない。新たなホールは施設の違いを明確にする必要があるのではないか。また、ふれあいセンターは、勤労者や老人のための施設として設置。文化会館とは利用者に違いがある施設だが、ソフト事業では、講座事業など似たような事業が多いため、統合するなどの新たな考え方が必要ではないか等、どのようなソフト事業をやっていかなければならないのかも整理する必要があるという意見が出ている。

今後、市民ワークショップの意見を踏まえた協議、また、来月には文化団体との意見交換なども予定。

【委員長】 部会は最後に報告という形でまとめなければならないので、必要があるものについて、優先順位をつけられるものは各部会の中でつけておくと会議の中で話を進めやすい。そのようにお願いします。

#### (5) 市民ワークショップ開催報告

【委員長】 続いて、市民ワークショップ開催報告を事務局から報告願う。

【事務局】 市民ワークショップは、職員ワーキンググループとの合同開催を基本としている。

10月11日午後6時から午後8時までの夜の時間帯で開催。公募の市民が6名と少なかったこともあり、第1回目は、市民から多くの意見を出してもらうため、職員ワーキンググループはオブザーバーという形で参加して実施。資料3により概要説明。

【委員長】 各委員から意見等はないか。

【各委員】 「なし」と発言する者あり)

【委員長】 それでは、私からです。

こういう資料はこれから市民にも出されると思う。また、ユニバーサルデザインの要望が出たりすると思う。資料では、バリアフリーのところで括弧してEVと書かれている。エレベーターのことだとわかるが、市民視点での用語の補足説明をどこかに入れておくことが重要だと考える。検討を願いたい。

#### (6) 業務委託プロポーザル企画提案の内容説明

【委員長】 続いて、業務委託プロポーザル企画提案の内容説明を事務局から願う。

【事務局】 業務委託に当たり、企画提案プロポーザルにより業者を選定。その中から最優秀提案として選定した内容を委員に紹介。

先ほど質問があったため、プロポーザル審査委員会について補足説明。プロポーザル審査委員会は、外部委員2名を含め、7名で組織。審査は、1次審査で、業務履行能力として、企業の能力や技術者の能力を書類審査。2次審査で、8月27日にプレゼンテーションとヒアリング審査を実施。2次審査は、業務実施方針や企画提案（三つ課題：①富良野市庁舎建設基本構想に掲げる基本方針と求められる機能を実現する具体的な整備方針について、②新庁舎建設検討委員会などの意見や提案を設計に反映させる基本的な考え方について、③事業費抑制や事業スケジュール短縮、適切な事業手法の方策）のほか、経費見

積額、プレゼンテーション・ヒアリングの対応の仕方も加え審査。

審査の結果、具体的な点数は公表していないが、委員7名のうち最優秀提案者を1位に選んだ者が6名いた。評価として企業の能力から実施方針、企画提案の内容、見積もり額など全体的によかったと言えると思う。

なお、このプロポーザル方式は、業務委託に当たり、受託候補者を選ぶ目的として実施しているので、いわゆる設計案を選ぶコンペ方式とは異なり、受託候補者の技術力、企画力、また、受託に当たっての考え方などを評価。これから説明する企画提案に必ずしも拘束されるものではない。今後、市と委託業者が十分に協議の上、検討を重ね、検討委員会の検討も踏まえていくことになるので、事前に了解願う。

【事務局】 パワーポイントによりその説明。

【委員長】 私もプロポーザル審査員の一人。今見てもらったのは、あくまでもプロポーザルの審査のための課題だと思ってほしい。ここに出てくる絵的なものはこの企業の能力をはかるためのもので、この絵ありきではないということを確認させていただく。

それでは、各委員から質問等はないか。

【委員】 2点確認したい。まず、先ほど選定経過の説明があったが資料がない。次回でいいので資料をほしい。また、提案内容は会議の資料として公開してはどうか。

【事務局】 提案内容は公表していない。審査員も審査のとき以外に資料として残るものは配付していない。この会議資料でも資料配付は差し控えたい。

企画提案内容の著作権等は提案者にあるので、募集の当初から公表しないとしていたので理解いただきたい。

【委員】 では、当然、今のスライドも公表しないということか。

【事務局】 はい。

【委員】 検討段階における内容に著作権等の問題は特にないはず。基本的に、情報公開できるものは可能な限り丁寧に公開していくべきだと思う。どうやって検討したのか、どういう検討課題があって、それをどうクリアしたのかは公開すべきだと思う。

しかし、これを公開するかどうか、公開してこの先入観が強くなると、後々、面倒くさくなるということは理解するので、これではなく、前段のどういう考えで選考したかという選考過程は公開すべきではないか。

【委員長】 公開と言っているのは、どこまでの公開か。

【委員】 先ほど口頭で説明したものを資料として書面で配付すること。会議資料はホームページで同時に公開されるので、それをすべきではないかと思っている。

【委員】 公開について、今回のプロポーザルの結果を見せてもらったが、事務局も委員長も、しつこいほど、あくまでも業者の能力なり企画提案をはかるためのものだという事。そういうことからすると、逆に言えば、公表することでこれありきになってしまうかもしれない。私としては、各委員が理解するのであれば、公表しないほうがいいのかなと思う。これがひとり歩きしてしまうと思う。

それから、提案してもらったものの著作権は、市役所側に残るのではないか。また、プロポーザルのときに公表しないという記載があったのか。

【委員長】 事務局から説明願う。

【事務局】 著作権については、実施要領で提案いただいた内容は提案者に著作権があると記載し

いる。また、提案内容を公表すると記載していない。

【委員】 本来は、本当にその業者が妥当なのかということでは、審査会の部分を含めて公表すべきだと思う。点数を含めて、何がよかったのか、何が評価されたのか、ほかの業者と何が違うのかは公表すべきだと思う。

【事務局】 公募前の議論であればどうするかという話もできるが、実際には、著作権は企画提案者のものとした上で公募した。また、内容についても公表するとしていないので、それを後になって公表することにはならないのではないかと考えている。

これは、プロポーザルの仕方。それぞれの自治体の考え方で実施要領に定めているので、その内容にないことをやることは、逆にできないとなる。

【委員】 この検討委員会の中で論議しながら意見を反映させるということだと、基本設計を発注すること自体が勇み足ではないか。普通であれば、我々検討委員会は市長から諮問されているのだから、そこで検討した案を持って業者を選定することが望ましいのではないか。第1回目でも言ったが、業者を決めていること自体がおかしいのではないか。

【委員長】 私から、基本的な確認だが、今回、プロポーザルの審査委員会は、どのような経緯で設置が決まっているのか。

【事務局】 基本計画策定と基本設計をあわせてやるというのは、6月議会において予算案の議決をいただき、了承をいただいたもの。

【委員】 それは重々わかるが、第1回目の検討委員会のために、苦言としておかしいのではないかと考えた。各委員にお願いしたいのは、事務局に文句を言いたくて言ったが、これは公表しないほうが良いと思う。図面などがひとり歩きしてしまって、場所を含めて、こういうふうに建てるのだと、それがありきになるから、公表しないほうが良いと思う。

【委員】 先ほども言ったが、私もこの内容は公開しないほうが良いと考えている。要するに、業者選定の段階で、どういう基準で、どう決めていったのかと、ポイント制でもいいが、そういうことを市民に明らかにしておく必要があるのではないかと考えている。  
議会で予算を通したが、その予算を使ってどういうことをしたのか、業者選定において、どういう経過で、どういう議論をして決めたのかは公開すべきだと思う。

もう一つ言うと、業者選定に当たって、業者からさまざまな質問を受けているが、それはホームページで公開している。では、それにのっかってどういうふうを選定したのかという報告が必要なのではないかと考える。

【事務局】 審査基準は実施要領に記載している。どういう内容で審査するのか、どういう点数をつけるのか、点数の配点なども審査基準で示しているのだから、もう既に市民に公表しているものだと考えている。

【委員長】 ほかに意見等はないか。

【各委員】 （「なし」と発言する者あり）

【委員長】 では、一応、説明を受けたので、次に進める。

議事に入る前に、事務局から1点あるとのことなので説明願う。

【事務局】 議会機能の検討について説明。

前回の検討委員会で、四つの部会を設置しそれぞれ機能を分けたが、基本構想にある議会機能については、部会の検討内容にはない。この機能は、基本構想の検討のときにも議論になったが、ここは議会に任せたいほうが良いのではないかと意見が出た。そこ

で、議会機能の検討の仕方について、各委員から意見をいただきたい。

【委員長】 各委員から意見等はないか。

【委員】 今、事務局から話のあった内容について、議会特別委員会等によって議会の中で検討して最終的な判断を決めているわけではないので、基本的な流れという意味で聞いていただきたい。

現在の議会機能は、議場、事務局、委員会室、議長室、応接室、我々の控室、小委員会室など、議会運営を進めていくために必要な施設がある。将来的には多様性を持ってあらゆることで使えるような機能的な議会の仕組みにするべく議会の中で検討していきたいと思っている。

スケジュールは、1月末に部会が議論の内容をこの検討委員会に報告することになっているので、議会特別委員会も、12月末までに考えを取りまとめ、1月には検討委員会に提案して協議いただきたいと思っている。

【委員長】 今の話について委員から意見等はないか。

【各委員】 （「なし」と発言する者あり）

【委員長】 それでは、そのように進めさせていただく。

#### 4. 議事

##### (1) 基本計画（案）の検討について

###### ・現状と課題の整理について

【委員長】 それでは、議事に入る。

基本計画案の検討のうち、まず、現庁舎及び文化会館の現状と課題の整理について、前回、庁舎と文化会館の施設見学を実施したので、委員にも現状はある程度把握いただけただと思う。また、最新の庁舎の視察も行ったので、これらを比較しながら現状と課題を整理し、庁舎建てかえの必要性について協議したい。

それでは、事務局から資料の説明を願う。

【事務局】 現状と課題の整理について、資料4（1～6頁）により説明。

1. 現庁舎の現状と課題

2. 現文化会館の現状と課題

【委員長】 ただいまの説明について、各委員から質問等はないか。

指摘されているところ、また、問題ではないということも含め、よろしいか。

【各委員】 （「なし」と発言する者あり）

【委員長】 質問等がないようなので、現状と課題の整理についてはこの内容でよろしいか。

【各委員】 （「異議なし」と発言する者あり）

【委員長】 それでは、これらの課題を解決するため、基本構想では建てかえと整理されているが、一部で改修との比較が必要ではないかという意見もある。そこで、建てかえの必要性について比較、検証したい。事務局から説明願う。

【事務局】 資料4（7～11頁）により説明。

3. 庁舎整備の必要性

4. 現文化会館整備の必要性

5. 現庁舎、現文化会館全面建て替え手法

庁舎の大規模改修、全面建てかえを比較した場合、全面建てかえのほうがすぐれており、長期的な視点で見ると優位性があるのではないかと考えられる。

文化会館についても、大規模改修と全面建てかえを比較した場合、全面建てかえがすぐれているのではないかと考える。

現庁舎、現文化会館ともに全面建てかえする場合、単独で建てかえる方法と複合化して合築する場合の二つがある。単独建てかえだと、現地建てかえ、もしくは、ほかの用地に建てかえとなるが、後者の場合は候補地の検討に時間がかかる。合築だと、新庁舎と文化会館の機能を複合化できる。単独建てかえと合築を比較した場合は、合築のほうが優位性が高いのではないかと記載している。

**【委員長】** 優位性という言葉で説明が終わったが、現在の庁舎あるいは文化会館について、全面建てかえか、大規模改修かということでは全面建てかえのほうが優位性が高いだろう、また、単独建てかえか、合築、複合化では、複合化したほうが優位だろうということ。

これに対して意見等はないか。

**【委員】** 何点か質問。

1点目は、平米8万円というのはどこの実績か。

2点目は、合築と単独建てかえについて、合築40億円は基本構想の数字だと言うが、単独建替えは、文化会館は平米60万円、市庁舎は45万円としている。合築も平米単価で算出するべきではないか。

**【事務局】** 平米8万円は、他市の事例を参考にして試算した。合築の40億円は、基本構想が他市の事例において平米当たり単価で出しているため、それを参考に作成した。

**【委員】** 基本構想で40億円という数字はない。また、65万円と40万円というのはどこの実績か。

**【事務局】** 40億円は、基本構想の建設工事費として記載してある。

**【事務局】** 庁舎45万円、文化会館60万円というのは、道日建において過去の事例や最近のコスト単価も踏まえて想定した額。

**【委員】** 同じ基準でいくのであれば、合築も道日建の基準で出すべきではないか。なぜそこだけ基本構想なのか。

**【事務局】** 合築の場合、文化会館の面積をどのくらいにするか、コンパクトにするのはわかっているが、そこがまだ決まっていない。そのため、基本構想で出した1平米当たり59万円を参考にした。

**【委員】** 単独建てかえの場合も基本構想の59万円でやるべきではないのか。

**【事務局】** 単独の場合は、文化会館と市庁舎の現面積等がそれぞれ出ている。

**【委員】** どちらかの単価で統一しないと比較できない。どちらにしても合築のほうが安くて効率的だというのはわかるが、どちらかの基準というか、同じ土俵に乗せた比較にしないと混乱すると思う。それから、平米8万円というのはどういうことか。これは建築担当から聞いたのか。

**【事務局】** 他市の事例で都市建築課に確認した単価。

**【委員長】** その他質問等はないか。

**【委員】** 検討委員会について、先ほどから出ているのは、どこから検討するかだと思う。第1回目でも委員からどこから検討するのか、もうでき上がっているものの押しつけなのかとい

う話があったが、検討委員会を立ち上げるのがもう少し前なら別だが、業者選定が済んでいる今となってはどうしようもない。どちらにしても前向きに検討していかなければならないと思う。今までのやり方にまずかった点があるなら、それを改善して、皆さんが前向きに捉えて検討できるような内容にしたほうがいい。

事前に基本構想の資料も配付され、目を通すと、きょうまでやっている内容は大体の想像がつく。ただ、検討委員会として、再度、いろいろなところに視察に行ったり、耐震性などを知らなければいけないということで前回と今回をやっていると思う。次の検討委員会から本当の意味での検討ができると思う。

今回、文化会館と市庁舎を一緒に建てる企画提案も見て、これなら人が集まるかなど。そうなると、文化会館のところを駐車場にするのかなど、今後は細かい話をしなければならない。次からやっとならぬという話をできるのかなど。先ほど北広島市の事例報告で基本設計がすごく大事だという話があったので、ここで時間を使ってほしいと思う。次からは本当の意味で検討できることを期待したい。

たたき台の基本構想で気になった点では、今、文化会館にある大会議室は、大変利用があって、ビールパーティーや新年交礼会などいろいろな形で使われていて、あのスペースは大変大事だと思っているので、大会議室に何人が入れるのか、中会議室に何人が入れるのか。また、大ホールを平場にして、いろいろな催しをやるときに、飲食をしいのか。

文化会館の料理教室は、イベントでも使っているが、20人や30人が入っても料理ができるスペースが欲しいとか、大会議室、大ホールをビールパーティーなどで使えるのであれば、調理室を近くにしてほしいなど、今回はこうした話を委員から出てくるように、今はたたき台でしかないため図面を早くつくり、そういうところに時間を使ってほしい。

【委員長】 ほかに意見等はないか。

【委員】 現状と課題の整理についての資料は道日建で作ったのか、事務局か。

【事務局】 事務局で作ったもの。

【委員】 この資料は商工会議所の部会で報告するが、訂正するなら、今した方がいいと思う。

この資料の比較では、大規模改修だと耐用年数が20年とあるが、それではだめなのか。

全面建てかえなら65年以上とあるが、建物は65年もつても、中身はもたない。これで比較するのはどうかと思う。

金額的な部分でも、20年後の人口を含めて、まちがどういう状況になっているかということもある。つまり、庁舎だけのことを考えれば、今、どんと大きなものをつくるのではなくて、大規模改修をして、状況を見ながらその時点で考えることも財政的なことからいくといいアイデアだと思う。

この中で、大規模改修は仮庁舎が必要で、当該施設の利便性が低下するとあるが、これは誰の利便性を言っているのか。市民の利便性か。また、建てかえは、ここの敷地の前面に建てて、裏側でやる。前側で工事をやっていたら、庁舎の中に入れば利便性は変わらないかもしれないが、出入りの利便性の問題が出てくる。これは余り強調できないのではないかなという気がする。

また、防災拠点の確保という点で言えば、かさ上げして機能的なものを上げたとしても、1メートルの水がつかいたら、市民を含めて、誰がここまで来るのか。これも余り言えないのではないかなと思う。

現状より手狭で利便性が劣る可能性がある、執務スペースがある程度狭くなってしまうとあるが、それは市民の利便性か、職員の利便性か。

基本計画を提案する中で道日建が委託を受けたのであれば、この辺の中身については、現状の基本構想をベースに道日建と事務局である程度調整して、具体的な単価も含め、道日建から提案されたほうがいいのではないかと。後になってから全然違うよと言われるのは逆に恥ずかしいのではないかと。

また、大規模改修で20年もたせるのも一つの案かなと思いはじめた。私が本当に言いたいのは、昔はまちの中に役場があった。でも、都市が拡大していくことによって役場の機能がだんだん膨らんできたとき、現庁舎の場所にずらして建てた。でも、今、高齢化や少子化とり、そういう中で市民の利便性を考えるなら、将来のAI（人工知能）導入や、土曜、日曜、祭日も窓口ができるようにするなど、役所機能をきちんと考えてほしい。従来の役所ではなく、まちの中で市民にとって利便性のある施設を考えたらどうかと思う。

協会病院が移転し、前はお年寄りも歩いてきたが、今は、バス路線ではないから、タクシーで来られる方が結構多くなった。庁舎の建てかえをきっかけに、土曜、日曜、祭日も利用できるように、窓口業務的なものは分離させてまち中に置いて、そこを機械化する、そして、余剰となった職員数をマンパワーが必要な福祉に回して市民サービスを充実させるなど、建てかえに当たっては役所機能のあり方を踏まえて場所とか建てかえの論議してほしいというのが本音。

**【委員長】** 委員長として確認。事務局と道日建という関係ではなく、事務局に道日建が入っているという理解でいいか。出てくる資料は全て道日建と事務局との話し合いで作られたものであり、道日建が前面に出てくるようなものではなく、あくまでも、市の事務局が中心でそれを手伝うのが道日建なので、逆に考えると、我々として市の事務局に対して何か言えば、その支援を行うのが今の道日建の立場ということ。

**【事務局】** 資料作成に当たっては市の事務局と道日建が十分に議論してつくった。ただ、ご指摘の点は十分に理解したので、今後はそれを生かしていきたい。

**【委員】** 商工会議所の部会に出す際は、これは道日建と調整されての数字であり、比較表ですと言っていていいか。事務局から出た資料だと言う。これをいただいた以上は、私は団体組織としての代表で来ているので、持ち帰って団体内部で協議する。そこで、後で変わるようなことだけはやめてほしい。

**【事務局】** こちらで提供しているのは、あくまでも事務局の資料で、道日建には事務局の支援をしてもらっている。

また、こちらでは、案を提示しているという考え方はない。基本構想をたたき台として説明している。基本構想で不足している比較、検証を補足的に示している。

**【委員長】** 私としては、全面建てかえあるいは大規模改修のどちらかでまとまればいいと思っていたが、長時間になったので、全面建てかえなのか、あるいは、大規模改修なのかも含め、これに対する委員会としての考え方をまとめるのは次回に回したいと思う。

要するに、二つの解決策がある中で、どちらを選ぶかは次回にまとめたいと思うが、よろしいか。

**【各委員】** （「異議なし」と発言する者あり）

**【委員長】** それでは、本日の議事は以上、ほかに意見等はないか。

【委員】 庁舎検討委員会の情報公開について、士別市の例を挙げると、検討委員会を含め、毎回、かわら版で市民周知している。また、士別市の場合は2年ぐらいかけて検討し、着工から建設されるまでかわら版を出すとのこと。我々として市民の皆さんにどう情報公開して、どう理解してもらうかも大きな仕事だと思っている。そういうことをやることによって市民に理解され、親しまれる庁舎ができ上がると考える。富良野市の場合、月2回、定期的に市民に周知する機会があるので、その一部を使って、検討委員会の内容、視察も含めて庁舎の特集を組んでいただくとか、いろいろなアイデアがあると思う。お年寄りの中にはインターネットを使えない人もいる。できるだけ小まめに市民にどんどん知らせていく作業も一緒に行い、庁舎に対する理解を深めてもらわなければいけないと思う。私としては、そんなふうに積極的に情報を公開する機会をつくるのが今求められていると思うので、検討してほしい。

【事務局】 広報11月号で1ページを使ってこれまでの経過をまとめた特集を組んで報告する。今後も随時掲載を考えている。

【委員長】 その他意見等はないか。

【委員】 今回、長時間に及んだのは、資料の説明に相当の時間がかかっている。当日に間に合わないものがあれば仕方がないが、資料は事前に配付してもらえれば、質問事項を絞れ、また、議員の委員は会派内で意見調整をしなければならないこともある。各団体においても内部協議の際に必要なと思うので、今後はそのようにしてほしい。

【委員長】 その他意見等はないか。

【委員】 情報発信、情報提供について、第1回目の委員会的时候、次回の開催予告を質問した。審議会等の開催状況で予告していたのは確認したが、新着情報は1週間で消えてしまうので、せっかく、ホームページのサイドバナーに新庁舎建設事業があるので、そこにもリンクさせてほしい。

先ほどの広報11月号に特集1ページというのは余りにも少な過ぎる。市民に丁寧にわかりやすい情報提供が必要。これは、富良野市民、富良野の将来にとって本当に大きな問題。市民と一緒に考え、合意形成をしていかなければいけない中で、8月から始まったものが1ページでは余りにもボリュームが少な過ぎる。3月まで毎回、特集を組んで、現段階でどこまで議論が進んでいるのか、各部会でどういう話が上がっているのか、丁寧にきめ細かく情報提供していただきたい。

また、現在行われている市長懇談会でも、建てる方向の議論は大いにさせていただいて結構だと思うが。建てるに当たってこういう問題があります、予算はこう考えています、将来的にはこうなりますという情報発信が全くできていない。いいところも悪いところも市民にわかりやすく提案して、市民に考えていただいて合意形成を図っていく努力が必要だと思う。

【委員長】 ほかに意見等はないか。

【各委員】 （「なし」と発言する者あり）

## 5. その他

### (1) 今後の予定について

【委員長】 今後の予定について、事務局から説明願う。



【事務局】 次回の第3回検討委員会の日程は記載のとおり、11月26日に開催。日程調整をよろしくお願ひしたい。次回の検討委員会では、新庁舎に備える機能、建設位置、事業手法の検討を進めたい。今回、建てかえの必要性等は次回に回すということで、それも含めて進めたいと考えている。また、機能については、職員ワーキンググループでの検討になるが、同時並行で検討委員会でもある程度の検討を進めていきたいと考えている。

そのほか、部会では、職員ワーキンググループが中間報告のまとめの検討を進め、それを受け、11月下旬から12月中旬に市民ワークショップを開催する予定。

【委員長】 次回は11月26日に予定。

【委員】 26日では出席できない。日程を変更できないか。

【委員長】 他の委員の都合はどうか。

【委員】 委員長の日程優先でいい。

【委員長】 事前に資料があれば、意見を集約するという形をとるのでどうか。

【委員】 建てかえについては、了解している。

【委員長】 複合化についてはどうか。

【委員】 お金の部分もあるので、まずは庁舎のこと。

今の進め方は、特例債ありきの庁舎建てかえ前提。そうすると、土地も市有地でやりやすいところとなる。どうせ庁舎を建てるのだったら、古い文化会館も庁舎の中に薄めて一緒にやろうというのが、基本構想。

私は、庁舎の建てかえはいいが、どうせ建てるのだったら、市民の利便性や将来の役所機能のあり方をもっと考えたほうがいいと思う。人口が減っていけば、当然、職員数も減っていくことを見越して、機械化を導入することによって、土曜、日曜、祭日も市民が使えるようにするなど、そういった根本的な論議をしてほしい。そういう中で、場所はどこがいいのか、また、将来的に使えるお金は幾らあるのか、そして、その使えるお金の中でやっていけばいい。

特例債があるから、今これに乗らなかつたらだめだ、そして、文化会館も一緒にやってしまおうとなっているが、それはちょっと待ってよ、それで58億円は大き過ぎないかと、これが商工会議所の考え。

【委員長】 今の意見も踏まえて、職員ワーキンググループあるいは市民ワークショップなど、いろいろな意見を吸い上げていただければと思う。

申しわけないが、第3回目は11月26日に開催する。欠席委員においては、事前に資料等を配付できるようにしたら、それに対して意見を出してほしい。

そのほか全体で質問等はないかい。

【各委員】 (「なし」と発言する者あり)

【委員長】 これで議事を終了する。ありがとうございました。

## 6. 閉会